Situator® Ver 2.0

操作マニュアル

1.5版 2014/1/7

© 2004-2014 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

本マニュアルは使用許諾契約を含むソフトウェアと共に提供される場合、本マニュアルおよびその中に記載さ れているソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供されるものであり、当該使用許諾契約の契約条件に従 ってのみ使用または複製することが可能となるものです。当該使用許諾契約により許可されている場合を除き、 本マニュアルのいかなる部分といえども、OKI Software Co., Ltd.(株式会社 OKI ソフトウェア)の書面による事 前の許可なしに、電子的、機械的、録音、その他いかなる形式・手段であれ、複製、検索システムへの保存、ま たは伝送を行うことはできません。本マニュアルの内容は、使用許諾契約を含むソフトウェアと共に複製されて いない場合であっても、著作権法により保護されていることにご留意ください。

本マニュアルに記載される内容は、あくまでも参照用としてのみ使用されること、また、なんら予告なしに変更さ れることを条件として、提供されるものであり、従って、当該情報が、株式会社 OKI ソフトウェアの責務として解 釈されることがあってはなりません。株式会社 OKI ソフトウェアは、本マニュアルにおけるいかなる誤謬または 不正確な記述に対しても、なんら責任または補償を負うものではありません。

Situator は、株式会社 OKI ソフトウェアの商標です。

Microsoft、Windows、VBScript、JScript、Visual Basic、Visual C++、ActiveX は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。 Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。 その他、記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

変更履歴表

[名利	[名称]Situator V2.0 操作マニュアル		
版数	変更 頁	変更内容(変更理由)	作 成 (日付)
1.0	-	初版	2007/09/13
1.1	2.2 項	図 2-4 を差し替え	2009/1/30
	2.3 項	図 2-7 を差し替え	
	2.6 項	図 2-15 を差し替え	
	2.11 項	図 2-24 を差し替え	
	3.6 項	図 3-14 と説明記述を追加	
	3.7 項	図 3-14 を 3-15 に変更	
	2.14 項	新規追加	
	2.15 項		
1.0	3.9 項		0000/4/47
1.2	2.8 項 2.13 項	編集した内谷か、開いた元電又テータファイルには反映されないという注意書きを追加	2009/4/17
1.3	5.1 項	match 要素のフォーマット仕様記述誤りを修正	2009/9/25
1.4	全頁	株式会社 OKI ソフトウェアに合併・社名変更に伴う修正	2010/11/4
	1.3 項	対応 OS の記述変更	
	3.2 項	図 3-8、図 3-9、図 3-10 を差し替え 説明文章一部変更	
	3.4 項	図 3-11 を差し替え	
1.5	1.3 項	対応 OS の追加	2014/1/7
	2.1 項	起動方法の説明記述追加	

目次

1	. 概要.		. 6
	1.1.	はじめに	. 6
	1.2.	Situator の機能と特徴	. 6
	1.3.	推奨動作環境	. 7
2	. 主な値	走い方	. 8
	2.1.	起動の仕方	. 8
	2.2.	TCP の着信待ち(Listen)をさせる	10
	2.3.	TCPの接続(Connect)を行う	13
	2.4.	TCP の着信待ち状態から接続を受ける	16
	2.5.	TCP 接続を切断(クローズ)する	17
	2.6.	TCPコネクション上に用意したファイルに書かれている電文データを送信する	20
	2.7.	TCP コネクション上に任意のテキストを送信する	23
	2.8.	TCP コネクション上に用意した電文データファイルを編集後、送信する	26
	2.9.	UDP のバインドをする	27
	2.10.	UDP バインドしたポートをクローズする	29
	2.11.	UDPの特定のポートへ用意したファイルに書かれている電文データを送信する	30
	2.12.	UDP の特定のポートへ任意のテキストを送信する	31
	2.13.	UDP の特定のポートへ用意した電文データファイルを編集後、送信する	33
	2.14.	TCP ソケットのプロパティを参照する	35
	2.15.	UDP ソケットのプロパティを参照する	37
3	. 高度な	こ使い方	39
	3.1.	受信するデータの情報を設定する	39
	3.2.	アドイン(スクリプト、DLL、シナリオ)を実行する	44
	3.3.	アドインを停止する	49
	3.4.	スクリプト形式のアドインを編集後、実行する	50
	3.5.	COM オブジェクトのアドインを実行する	51
	3.6.	ログ表示ビューに表示されるメッセージの色や文字数の上限を変更する	52
	3.7.	ログファイルを保存する	54
	3.8.	起動オプションをつけて Situator を実行する	56
	3.9.	暗号化通信を行う	57
4	. メニュ	-一覧	60
	4.1.	ファイルメニュー	60
	4.2.	編集メニュー	60
	4.3.	表示メニュー	60
	4.4.	操作メニュー	60
	4.5.	アドインメニュー	61
	4.6.	ヘルプメニュー	61
	4.7.	コンテキストメニュー	62
	4.8.	ツールバーアイコン	62
5	. ファイ	ルデータフォーマット	64
	5.1.	受信設定ファイルについて	64

		Situator [®]
		操作マニュアル
5.2.	データファイルについて	

1. 概要

Situator(Situation Simulator)は簡単に擬似環境を構築することで、結合テストや総合テストを容易にするものです。

1.1. はじめに

Situator は簡単に擬似環境を構築するためのツールです。

TCP/IP 上で動作するネットワークアプリケーションの開発を行う際、動作確認のための試験は欠かせません。 アプリケーションの単体テストは開発マシン単体で行うことも可能ですが、結合テストや総合テストの場合、どう しても実際の動作環境を構築しなければテストができないことが通常です。

しかし、結合テストや総合テストを行う際、プロジェクトによっては、

- 「まだ接続先のアプリケーションが完成していない(完成していなくても早くテストを行いたい)」
- 「接続先となる機器を準備することができない(納入機器でテストを行うが、非納入機器が接続先となる)」
- 「環境があっても、利用できる時間が少ない」
- 「テスト用データの準備が大変」

など様々な原因で、環境構築が困難な場合が多くなります。そして、そうした場合、テスト用のツールを自作す る必要があり、手間がかかっていました。

Situator はそうした現状を踏まえて開発されたツールです。Situator を利用することで「簡単に」、しかも「拡張 性高く」、擬似環境を構築し、様々なテストに対応できます。

1.2. Situator の機能と特徴

Situator の特徴は以下の通りです。

- · 容易に TCP/IP 上の擬似ホストや擬似端末(擬似対向機)になる擬似環境構築
- テストを行っているコネクションの状態が一目で分かり、簡単に操作できる Look&Feel
- ・ 様々なテストシーケンスを簡単に行うための拡張性の良さ(アドイン機能)
- テスト結果を保存するログ機能
- ・ シナリオファイルの実行機能

特に、誰もが簡単に扱えるよう、操作性やテスト中の視認性が高くなっています。

また、機能面も通常の TCP/IP の接続テストならば標準の機能で出来、また、独自のプロトコルのテストにお いても汎用的なプログラミング言語を複数サポートしたアドイン機能により、「高い拡張性」と「利用者の言語習 熟度に応じた利便性」の両立を実現しています。

さらに、シナリオファイル実行機能により、色々な通信シーケンスを実現するシナリオを作成して自動実行させ ることが可能です。シナリオはXML形式のテキストファイルで、一般的なテキストエディタでも記述できますが、 専用のシナリオエディタが用意されているため、このシナリオエディタを活用することで素早く簡単にシナリオを 組むことができます。シナリオエディタについての詳細は、シナリオエディタ操作マニュアルを参照ください。

Situator を使うことで、これまで不便だったホスト系の結合テストや総合テストを簡単なものにし、生産性の向上にお役立てください。

1.3. 推奨動作環境

Situator の推奨する動作環境は以下の通りです。

ハードウェア項目			
CPU	Intel Pentium3 プロセッサ(800MHz)相当以上		
	または OS 推奨 CPU 以上		
メモリ	512M バイト以上		
	または OS 推奨メモリ量以上		
必要な HD 空き容量	50MB 以上の空き容量		
	ログファイル出力機能を利用する場合はログファイルを保存するだけの		
	容量が別途必要です。		
NIC	1 つ以上のネットワークインターフェースカード		
ソフトウェア項目			
OS	Windows XP Home/Professional SP3		
(32bit,日本語版)	Windows Server 2003/2003R2 SP2		
	Windows Vista Home/Business/Ultimate SP2		
	Windows Server 2008 SP1/SP2 (ServerCore 環境は未対応)		
	Windows 7 Professional		
	Windows 8 Pro		
00			
	Windows Server 2008 R2 (ServerCore 境項は木対応)		
(0401(,日本	Windows / Professional		
	Windows 8 Pro		
	Windows Server 2012 (ServerCore 理度け主対応)		
	Windows Server 2012 (ServerCore 環境は木列心)		
	Windows Server 2012 R2 (Server Core 現境は不対応)		
	* 32bit プログラムとして動作します。		
	* 64bit プログラムとしての動作には対応していません。		
その他	IPv6 を使用する場合、OS が対応している必要があります(Windows XP		
	SP1 以降)。		
	Microsoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1(インスト		
	ーラでインストールされます)		

表 1-1 ハードウェア/ソフトウェア動作環境

2. 主な使い方

Situator の主な使い方を示します。 この機能解説をお読みになれば、Situator で基本的なことができるようになります。

2.1. 起動の仕方

起動は「図 2-1 起動の仕方」のように、「スタートメニュー」「すべてのプログラム」「Situator」内の 「Situator」をクリックしてください(Windows8 などスタートメニューが無い場合は、スタート画面の[アプリ]ビュー から選択できます)。



図 2-1 起動の仕方

Situator を起動すると「図 2-2 起動画面」のようになります。各種ファイルメニューやアイコンの詳細は、「4メ ニュー一覧」を参照してください。



2.2. TCP の着信待ち(Listen)をさせる

擬似対向機としてコネクションを確立するために、着信待ちの状態を作ることができます。 着信待ちは以下のように行います。

(1) 着信待ち(Listen)の状態を作るためには、メニューの「操作」 「TCP 着信待ち」を選ぶか、状態ビューのと ころで右クリック後、表示されるメニューで「TCP 着信待ち」を選んでください(「図 2-3 TCP 着信待ちメニ ュー」)。

Situator		
ファイル(E) 編集(E) 表	表示(V) 操作(A) アドイン(D) ヘルブ(H)	
] 	೫ 🕺 📯 💏 - 🕅 - 🕩 - 🕩 - 💷	
TCP Sockets TCP Sockets Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial Tinitial	ファイル送信(E) Ctrl+D テキスト送信(I) Ctrl+T データ編集送信(E) Ctrl+E 最近送信したファイル(L) ▶	
Addins	受(言設定(<u>R</u>) 受(言設定解除(<u>U</u>) 最近設定したファイル(<u>M</u>) ・	
	TCP接続(N) Ctrl+N	
	TCP 着信待ち(L) Ctrl +L	
	00P7 14 2 F(B) 45 Ctrl+B クローズ(C) Ctrl+K	
	ここからすべてクローズ(<u>A</u>)	
	プロパティ(<u>P</u>)	
TCP著信待ちを実行	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved	

図 2-3 TCP 着信待ちメニュー

(2) 次に、表示される設定ダイアログに「着信待ちを行う IP アドレス」と「ポート番号」を入力してください。このとき、ホストの隣にある「>」ボタンを押すと、ローカルの IP アドレスが表示されますので、それを選択することもできます。REUSEADDR チェックボックスをチェックすると、ソケットオプションの SO_REUSEADDR を有効にして着信待ち(バインド)を行います。

また、「>>」ボタンをクリックすると、ダイアログが拡大し、バックログの設定など詳細な設定を行うことができます。

TCP着信待ち	詳細設定をするボタン
ローカルアドレスの設定 ホスト(出): ポート(P): 10001 ▼ <u>R</u> EUSEADDR	OK キャンセル <
着信待ちを行うポート 暗号化(E): 無し 🔽 設定(5)	着信待ちを行う IP アド レス
- バックログの設定 バックログ(B): 10 ■	
Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserve	ed.

図 2-4 TCP 着信待ちダイアログ

(3) ホストの IP アドレスとポート番号を入力すると、着信待ちの状態になります。

ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 操作(A) アドイン(D) ヘルブ(H) Image: Sectors Image: Image	Situator	
 ※ 時・時・●・● Initia Example 1 Example 2 Sockets Initia Example 2 Example 2 Example 2 Sockets Example 2 Example 2	ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイン(12) ヘルプ(11)
Initial Initial Bind Usten Q, ID = 1: bind to 0.0.0.0:10001 Accept Udp Sockets Initial Bind Addins Idial] 🖬 X 🖻 💽 🖏 🐽 😡 🗙	荷井 - 🚺 - 🚺 - 🔳 -
Ready	Initial Initial Initial Initial Initial Connect Accept Udp Sockets Initial Bind Addins	[2007/09/10 15:52:48.750] TCPソケット ID = 1 で 0.0.0.0:10001 ヘバイ ンドします [2007/09/10 15:52:48.750] TCPソケット ID = 1 が作成されました [2007/09/10 15:52:48.765] TCPソケット ID = 1 がバインド状態になりました [2007/09/10 15:52:48.765] TCPソケット ID = 1 がリッスン状態になりました

図 2-5 TCP 着信待ち状態

2.3. TCPの接続(Connect)を行う

着信待ち(Listen)の状態にある機器とコネクションを確立するために、接続することができます。 接続は以下のように行います。

(1) 接続(Connect)をするためには、メニューの「操作」 「TCP 接続」を選ぶか(「図 2-6 TCP 接続メニュ ー」)、状態ビューのところで右クリック後、表示されるメニューで「TCP 接続」を選んでください。

Situator			
ファイル(E) 編集(E) 表示(V)	操作(A) アドイン(D)	ヘルプ田	
j 🖃 🕺 🖻 耳 🚳 👧	👰 🗙 🕅 - 🕅 -	- D + - D + - D =	
Top Sockets	ファイル送信(E) テキスト送信(I) データ編集送信(E) 最近送信したファイル	Ctrl+D Ctrl+T . Ctrl+E V(L) •	
Initial Bind Addins	受信設定(R) 受信設定解除(U) 最近設定したファイル	ν(<u>Μ)</u> ►	
	TCP接続 <u>(N)</u> TCP若信待ち(L) UDPバインド(B) クローズ(C)	Ctrl+N Ctrl+B Ctrl+K	
	ここからすべてクローズ	(A)	
	プロパティ(P)		
TCP接続を実行	Copyr	right (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All righ	its reserved.

図 2-6 TCP 接続メニュー

(2) 次に、表示される設定ダイアログに「接続先ホストの IP アドレス」と「ポート番号」を入力してください。このと き、ホストの隣にある「>」ボタンを押すと、ローカルの IP アドレスが表示されますので、それを選択すること もできます。

また、「>>」ボタンをクリックすると、ダイアログが拡大し、ローカルアドレスの設定など詳細な設定を行うことができます。

TCP接続	詳細設定をするボタン
接続先アドレスの設定 ホスト(出): ポート(P): 10001 ▼	ок *+>>セル
接続先のポート番号 暗号化(E): 無し ☑ 設定(5)	続先ホストの IP アドレス
ローカルアドレスの設定	
ホスト(D):	
ポート(<u>O</u>): <u> R</u> EUSEADDR	
Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved	1.

図 2-7 TCP 接続ダイアログ

(3) ホストの IP アドレスとポート番号を入力すると、接続先のホストが着信待ち状態だった場合、接続状態になります(「図 2-8 TCP 接続状態」)。そうでない場合、エラーとなります。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) ア	ドイン(四) ヘルプ(日)
] 🖬 X 🖻 🖬 🔂 😚 🤬 🗙 🕅	- 87 - I II - II - II -
米 国 正 のの の への への かっています。 Tcp Sockets Initial Bind Listen Connect Q, ID = 1 : connect to 10.162.2.7 Accept Udp Sockets Initial Bind Accept Udp Sockets Initial Bind Addins	・ 荷・ ●・・●・・●● O7/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ もします O7/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました O7/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりま - O7/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接 Eld 10.162.2.76:10001 です O7/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
I	
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-8 TCP 接続状態

2.4. TCP の着信待ち状態から接続を受ける

「2.2TCP の着信待ち(Listen)をさせる」の処理後、着信待ちの状態になっているとき、任意のホストから接続 要求が来ると、自動的に接続を受け付けます(「図 2-9 TCP 接続受付状態」)。 着信待ちの状態になっていない場合は、接続を受け付けることはできません。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A)) アドイン(2) ヘルプ(出)
] 🖬 🏅 🖻 💽 🐯 👧 😡 🗙	商業 - 簡子 - 🗈 - 🗈
Top Sockets Initial Bind Listen Q, ID = 1 : bind to 0.0.0.0:10001 Connect Accept Q, ID = 2 : connect from 10.162.: Udp Sockets Initial Bind Addins	[2007/09/10 15:52:48.750] TCPソケット ID = 1 で 0.0.0.0:10001 ヘバインドします [2007/09/10 15:52:48.750] TCPソケット ID = 1 が作成されました [2007/09/10 15:52:48.765] TCPソケット ID = 1 がリッスン状態になりました [2007/09/10 15:52:48.765] TCPソケット ID = 1 がリッスン状態になりました [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:3139 からの接続を受け付けました。着信TCPソケット ID = 2 が作成されました [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 2 が作成されました [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 2 が作成されました
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-9 TCP 接続受付状態

2.5. TCP 接続を切断(クローズ)する

接続したコネクション(ソケット)を切断(クローズ)するのは、Situatorから接続を行った場合(「2.3TCPの接続 (Connect)を行う」)でも、Situator が接続を受けた場合(「2.4TCP の着信待ち状態から接続を受ける」)でも、 どちらでも可能です。

どちらも同様の方法で行えるので、ここでは Situator から接続を行った場合の切断を以下に示します。

(1) 切断(クローズ)したいコネクション(ソケット)を選択します。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイン(四) ヘルプ(日)
🗐 X 🖻 耳 😚 of 🧕 🗙	88 - 81 - B+ - B+ - B=
Tcp Sockets Initial Bind Listen Connect Q, ID = 1 : connect to 10. 162. 2.7 Accept Udp Sockets Initial Bind Addins	(Q] ・ Q] ・ L)・ L ● ・ L● ・ L● [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ 接続します [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりました [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続上は 10.162.2.76:10001 です [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-10 切断(クローズ)したい TCP コネクション(ソケット)の選択

(2) メニューの「操作」 「クローズ」を選ぶか(「図 2-11 TCP 切断(クローズ)メニュー」)、状態ビューで選択し たコネクション(ソケット)のところで右クリック後、表示されるメニューで「クローズ」を選びます。

Situator			
ファイル(E) 編集(E) 表	長示(<u>V</u>) 操作(<u>A</u>) アドイ	(ン(四) ヘルプ(日)	
] 🖬 X 🖻 耳 8)) oj 🙊 🗙 õj 🔸	ÖT - I - I - ⊡=	
Tcp Sockets	[2007, 接続し	/09/10 16:02:30.578] TCPソケッ ,ます	ト ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ
Dind Listen	[2007, [2007,	/09/10 16:02:30.578] TCPソケッ /09/10 16:02:30.593] TCPソケッ	ト ID = 1 が作成されました ト ID = 1 が接続処理中状態になりま
Q, ID = 1 : connect	to 10.162.2.7t [2007, ファイル送信(F)	/09/10 16:02:30.593] TCPソケッ CHI+D :10001 です	ト ID = 1 が接続に成功しました。接
Udp Sockets	テキスト送信(1) データ編集送信(E) 最近送信したファイル(Ctrl+T 80.598] TCPソケッ Ctrl+E	ト ID = 1 が接続状態になりました
Addins	受信設定(R) 受信設定解除(U) 最近設定したファイル((M) •	
	TCP接続(N) TCP著信待ち(L) UDPバインド(B)	Ctrl+N Ctrl+L Ctrl+B	
	クローズ(C) ここからすべてクローズ(
	プロパティ(P		
クローズを実行		Copyright (C) 2010 OKI Software Co.	, Ltd. All rights reserved.

図 2-11 TCP 切断(クローズ)メニュー

(3) 切断(クローズ)されます。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アド	イン回 ヘルプ田
] 🖬 X 🖻 💽 😚 👧 🗙 🕅 •	· 🕅 🗈 - 🗈
 Top Sockets Initial Bind Listen Connect Accept Udp Sockets Initial Bind 2007 た (2007 	<pre>/09 / ロ・・ロ・・ロ・ /09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ します /09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました /09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりま /09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました。接 は 10.162.2.76:10001 です /09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました /09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 がクローズします /09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 がクローズ状態になりまし /09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 が削除されました</pre>
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-12 TCP 切断(クローズ)状態

Situator[®] 操作マニュアル

2.6. TCP コネクション上に用意したファイルに書かれている電文データを送信する

テストで利用する電文データをあらかじめファイルに用意しておくことで、そのデータをコネクション上に自動 送信することができます。同じデータを使って行うテストが複数ある場合は、テスト効率が上がります。 電文データファイルを送信するためには以下のように行います。

(1) 送信したいコネクションを選択します。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイン(四) ヘルプ(日)
🖶 X 🖻 💽 🚳 😡 🗙	. 839 - 801 - II II II-
cp Sockets	[2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ
Initial	接続します
Dind Bind	[2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました
🔁 Listen	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりま
Connect	した
	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接
Accept	続先は 10.162.2.76:10001 です
Jdp Sockets	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
🔁 Initial	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 をクローズします
Bind	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 がクローズ状態になりまし
Addins	た
	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 が削除されました
	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ
	接続します
	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が作成されました
	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりま
	した
	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接
	続先は 10.162.2.76:10001 です
	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-13 ファイル送信したい TCP コネクションの選択

(2) メニューの「操作」「ファイル送信」を選ぶか、状態ビューで選択したコネクションのところで右クリック後、 表示されるメニューで「ファイル送信」を選びます(「図 2-14 TCP 上でのファイル送信メニュー」)。

Situator						- 🗆 ×
ファイル(E) 編集(E)	表示(V) 操作(A) アドイン(D) ^	くにプロ			
] 🖬 X 🖻 耳	1 🚳 🚳 🙊 🗙	1 · 10 - 10	□ ▶ - □ ▶ - (3=		
cp Sockets Initial Bind Listen Connect Q, ID = 1 : conn Accept Jdp Sockets Initial Bind Accept Jdp Sockets Initial Bind Addins	 ○〕○〕◎〕◎ ○〕○〕◎ ○〕○〕◎ ○〕○〕◎ ○〕○〕 ○〕○□ ○〕○□ ○〕○〕 ○〕○□ ○〕□ ○〕○□ ○〕□ ○〕 ○〕 ○〕 ○〕 ○〕 ○〕 <li< td=""><td>○ ● ・ ○ ■ ・ □ ・ □ [2007/09/10 1 接続します [2007/09/10 1 [2007/09/10 1 [2007/09/10 1 した [2007/09/10 1 した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] [2007/09/10 1] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/</td><td>6:02:30.578] 6:02:30.578] 6:02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 09:49.140] 09:49.140] 09:49.140] 10:31.390]</td><td>■ TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット です TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット</td><td> ID = 1 で 10.162.2.7 ID = 1 が作成されまし ID = 1 が接続処理中れ ID = 1 が接続に成功し ID = 1 が接続状態にか ID = 1 が存続状態にか ID = 1 がクローズ状態 ID = 1 が削除されまし ID = 1 で 10.162.2.7 ID = 1 が作成されまし </td><td>6:10001 へ した 大態になりま しました。接 なりました 長す のこなりまし した 6:10001 へ した</td></li<>	○ ● ・ ○ ■ ・ □ ・ □ [2007/09/10 1 接続します [2007/09/10 1 [2007/09/10 1 [2007/09/10 1 した [2007/09/10 1 した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] した [2007/09/10 1] [2007/09/10 1] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/09/10] [2007/	6:02:30.578] 6:02:30.578] 6:02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 02:30.593] 09:49.140] 09:49.140] 09:49.140] 10:31.390]	■ TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット です TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット	 ID = 1 で 10.162.2.7 ID = 1 が作成されまし ID = 1 が接続処理中れ ID = 1 が接続に成功し ID = 1 が接続状態にか ID = 1 が存続状態にか ID = 1 がクローズ状態 ID = 1 が削除されまし ID = 1 で 10.162.2.7 ID = 1 が作成されまし 	6:10001 へ した 大態になりま しました。接 なりました 長す のこなりまし した 6:10001 へ した
	TCP接続(N) TCP着信待ち(L). UDPバインド(B) クローズ(C) ここからすべてクロ プロパティ(P)	-ズ(A)	10:31.390] 10:31.390] .76:10001 10:31.390]	TCPソケット TCPソケット です TCPソケット	- ID = 1 が接続処理中社 - ID = 1 が接続に成功し - ID = 1 が接続状態にた	った 犬態になりま しました。接 なりました
L	· · · ·					
ファイルを送信		Copyright	t (C) 2010 OKI S	oftware Co., L	Ltd. All rights reserved.	

図 2-14 TCP 上でのファイル送信メニュー

(3) ファイル送信ダイアログで、目的のファイルを選びます。



図 2-15 ファイル送信ダイアログ

(4) 電文データファイルに書かれている電文が送信されます。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(4	A) アドイン(D) ヘルプ(H)
j 🖬 X 🖻 💽 🚳 😡 🗡	< 88 - 87 - 18 - 8 - 8
cp Sockets [2007/	09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続しま
🔁 Initial 🛛 🚽 🚽	
Bind [2007/	09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました
Listen [2007/	09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりました
Connect [2007/	09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先は
	.2.76:10001 です
Accept [2007/	09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
Jdp Sockets [2007/	09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 をクローズします
Initial [2007/	09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 がクローズ状態になりました
Bind [2007/	09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID = 1 が削除されました
Addins [2007/	09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続しま
j	
[2007/	09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が作成されました
[2007/	09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりました
[2007/	09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先は
10.162	.2.76:10001 です
[2007/	09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID = 1 が接続状態になりました
[2007/	09/10 16:12:09.046] TCPソケット ID = 1 で 9 バイトのデータを送信します
[2007/	09/10 16:12:09.046] TCPソケット ID = 1 がデータ送信に成功しました。送信
データ	サイズは 9 バイトで、送信結果サイズは 9 バイトです
	+0 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9 +A +B +C +D +E +F 0123456789ABCDEF
000000	00 53 45 4E 44 44 41 54 41 32 SENDDATA2
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-16 TCP 上でのファイル送信状態

2.7. TCP コネクション上に任意のテキストを送信する

テストによっては電文データファイルを用意するまでもないものの、簡単なテキストを送信したい場合もあると思います。そのために、Situator では、任意のテキストを直接、キーボードから入力して送信することができます。

また、同様の手順でテキストファイルに書かれているデータをそのままテキストとして送信することもできます。

- (1) テキスト送信したいコネクションを選択する(「図 2-13 ファイル送信したい TCP コネクションの選択」と同様)。
- (2) メニューの「操作」 「テキスト送信」を選ぶか、状態ビューで選択したコネクションのところで右クリック後、 表示されるメニューで「テキスト送信」を選びます(「図 2-17 TCP 上でのテキスト送信メニュー」)。

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイン(D) ヘルプ(H) □ ※ 回 □ ※ 図 * 図 * 図 * □ • □ * • □ □ ※ 回 □ ※ 図 * 図 * 図 * □ • □ * • □ □ ※ 回 □ ※ 図 * 図 * 図 * □ * • □ * • □ □ Initial [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続しま ■ ■ [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました □ [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました □ [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりました
 □ ※ ● □ ※ ◎ ◎ ※ ◎ × ◎ ・ ◎ ・ ● ・ □ ● □ p Sockets □ Initial □ Bind □ Listen □ Listen □ ○ ◎ ◎ ※ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
cp Sockets [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続します j Initial す j Bind [2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID = 1 が作成されました Listen [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が存成されました
Connect [2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先は 0, ID = 1 : connect to 10 10.162.2.76:10001 です Accept ファイル送信(D Ctrl+D Idp Sockets ファイル送信(D Ctrl+T データ編集送信(D Ctrl+E 最近送信したファイル(L) Bind 最近送信したファイル(L) (D) Addins 受信設定(R) 受信設定解除(U) 最近設定したファイル(M) (D) TCP技続(M) Ctrl+N TCP技術(M) Ctrl+N TCP支付(E) Ctrl+N TCP技術(M) Ctrl+N TCP支付(D) Ctrl+N TCP対ケット ID = 1 が作成されました TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先しま TCPソケット ID = 1 が指続に成功しました。接続先しま TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先しま TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先しま TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。接続先しま TCPソケット ID = 1 が接続に成功しました。 TCPソケット ID = 1 が接続になりました TCPソケット ID = 1 が接続になりました TCPソケット ID = 1 が接続になりました TCPソケット ID = 1 が接続になりました。 TCPソケット ID = 1 が接続になりました TCPソケット ID = 1 が接続になりました TCPソケット ID = 1 が接続け換した TCPソケット ID = 1 が接続け換した TCPソケット ID = 1 が接続け換した TCPソケット ID = 1 が接続け換した TCPソケット ID = 1 が接続け換した <td< td=""></td<>
・ テキストの編集と送信 Copyright (C) 2010 OKI Software Co. Ltd. All rights reserved

図 2-17 TCP 上でのテキスト送信メニュー

(3) テキスト送信ダイアログにテキストを直接入力又はファイルから読み込んで、そのテキストを編集します。 「OK」を押せば、そのテキストが送信されます。

テキスト送信	×
送信するテキ	ска сказа с сказа с с с с с с с с с с с с с с с с с с
Situator	.0 キャンセル 開((0) 復元(R)
	テキストファイルから 開く場合、 ここをクリックする。
-	
テキスト編集画面): US-ASCII - CP20127
改行コード NULL文字(: CR+LF (0x0D,0x0A) : 追加しない
	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-18 テキスト送信ダイアログ

(4) テキスト送信されます。

Situator		
ファイル(E) 編集(E) 表示(V)	操作(A) アドイン(D) ヘルプ(H)	
🖬 X 🖻 耳 🚳 🚳	© × 83 - 81 - ⊡ - ∎	
cp Sockets	[2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID	= 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続しま
🔁 Initial	<u>द</u>	
Dind Bind	[2007/09/10 16:02:30.578] TCPソケット ID	= 1 が作成されました
🔁 Listen	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID	= 1 が接続処理中状態になりました
Connect	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID	= 1 が接続に成功しました。接続先は
	10.162.2.76:10001 です	
Accept	[2007/09/10 16:02:30.593] TCPソケット ID	= 1 が接続状態になりました
Jdp Sockets	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID	= 1 をクローズします
🛅 Initial	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID	= 1 がクローズ状態になりました
Bind	[2007/09/10 16:09:49.140] TCPソケット ID	= 1 が削除されました
Addins	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID	= 1 で 10.162.2.76:10001 へ接続しま
	₫.	
1 1	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID	= 1 が作成されました
1 1	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID	= 1 が接続処理中状態になりました
1	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID	= 1 が接続に成功しました。接続先は
1 1	10.162.2.76:10001 です	and other an inclusion of products and a succession of
1	[2007/09/10 16:10:31.390] TCPソケット ID	= 1 が接続状態になりました
	[2007/09/10 16:28:15.968] TCPソケット ID	= 1 で 12 バイトのデータを送信します
1	[2007/09/10 16:28:15.968] TCPソケット ID	= 1 がデータ送信に成功しました。送信
	データサイズは 12 バイトで、送信結果サイ	ブロコンイトです
	+0 +1 +2 +3 +4 +5 +6 +7 +8 +9	+A +B +C +D +E +E 0123456789ABCDEE
	10000000 53 69 74 75 61 74 6E 72 20 32	2E 30 Situator 2.0
		22 John Streaton 2.0
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software	Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-19 TCP 上でテキスト送信状態

2.8. TCP コネクション上に用意した電文データファイルを編集後、送信する

あらかじめ用意してある電文データファイルをそのまま送る方法は「2.6TCP コネクション上に用意したファイルに書かれている電文データを送信する」の通りです。

しかし、既に用意してある電文データファイルのほんの一部分だけを変更して送信したい場合、それだけのために電文データファイルをもう一つ用意するのは面倒です。特にそれが、そのテストー回だけのためのものの 場合はなおさらです。

そうした場合、既に作ってある電文データファイルをSituator上で編集し、その編集したものを送信することができます。

- (1) テキスト送信したいコネクションを選択する(「図 2-13 ファイル送信したい TCP コネクションの選択」と同様)。
- (2) メニューの「操作」「データ編集送信」を選ぶか、状態ビューで選択したコネクションのところで右クリック後、 表示されるメニューで「データ編集送信」を選びます。
- (3) データ編集送信ダイアログが開きますので、編集したい電文データファイルを開きます。電文データファイ ルを開くと、データが表示されますので、変更したい場所を編集し、「OK」ボタンを押せば、そのデータが送 信されます(注:ここで編集した内容は、開いた元の電文データファイルには反映されません)。



(4) 編集した電文データファイルが送信されます。

2.9. UDP のバインドをする

Situator は TCP だけでなく UDP も扱えます。

UDP の場合、コネクションレスのプロトコルであるために、TCP のように接続という処理はなく、着信待ちに相当するバインドを行うだけで、データを受信することができます。 UDP のバインドは以下のように行います。

(1) バインドの状態を作るためには、メニューの「操作」「UDP バインド」を選ぶか(「図 2-21 UDP バインドメ ニュー」)、状態ビューのところで右クリック後、表示されるメニューで「UDP バインド」を選んでください。

Situator		-O×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイ	(ン() ヘルプ(出)	
🖬 🏅 🖻 🖬 🐻 🚳 🗶 🗡 🕅 -	(77 - □• - □• - □=	
□······ Top Sockets ····································	Ctrl+D Ctrl+T E) Ctrl+E	
Linitial 最近送信したファイ	(μ(<u>)</u>)	
■ Eind 受信設定(R) ● Addins 受信設定解除(U) 最近設定したファイ) (ル(M) ►	
TCP接続(1) TCP著信待ち(1)	Ctrl+N . Ctrl+L	
UDPバインド(B) クローズ(⊆)	Ctrl+B Ctrl+K	
ここからすべてクロー	-ズ(<u>A</u>)	
プロパティ(P)		
UDPバインドを実行	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights res	served.

図 2-21 UDP パインドメニュー

(2) 次に、表示される設定ダイアログに「UDP バインドを行うローカルホストの IP アドレス」と「ポート番号」を入 力してください。



図 2-22 UDP パインドダイアログ

(3) UDP バインドされた状態になります。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アドイン(D) ヘルプ田
🖬 វ 🖻 💶 😽 🕺 👰 🗙 🏦 - 🎁	
Top Sockets ○ Initial ○ Bind ○ Listen ○ Connect ○ Accept Udp Sockets ○ Initial ○ Bind ○ Q, ID = 1 : bind to 0.0.0.0: 100 Addins	10・ロ・ロー 16:34:51.156] UDPソケット ID = 1 で 0.0.0.0:10000 ヘバイン 16:34:51.062] UDPソケット ID = 1 が作成されました 16:34:51.156] UDPソケット ID = 1 がバインド状態になりました
Ready Cop	pyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-23 UDP バインド状態

2.10. UDP バインドしたポートをクローズする

「2.9UDP のバインドをする」を行い、UDP のバインドを行った場合、いつでもクローズをすることができます。 クローズは TCP の場合とまったく同様で、クローズしたいソケットを選択した後、メニューの「操作」 「クロー ズ」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示されるメニューで「クローズ」を選びま す。 2.11. UDP の特定のポートへ用意したファイルに書かれている電文データを送信する

UDP の特定のポートへ、テストで利用する電文データをあらかじめファイルに用意しておくことで、そのデー タをソケット上に自動送信することができます。同じデータを使って行うテストが複数ある場合は、テスト効率が 上がります。

電文データファイルを送信するためには以下のように行います。

- (1) 送信元となる UDP ソケットを選択します。
- (2) メニューの「操作」「ファイル送信」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示 されるメニューで「ファイル送信」を選びます。
- (3) ファイル送信ダイアログ(「図 2-24 UDP ファイル送信ダイアログ」)で、目的のファイルを選び、さらに送信 先のホストアドレスとポートを設定します。

ファイル送信	×
ファイル(E):	ок
ファイルの種類	キャンセル
● Situatorデータファイル(D)	
○ バイナリファイルとして扱う(B)	L 目的のデータファイルを選ぶ
「送信先の設定	
ホスト(出): ▼ >	1
	- ────────────────────────────────────
ポート(P): 10000 👤	

図 2-24 UDP ファイル送信ダイアログ

(4) 電文データファイルに書かれている電文が送信されます。

2.12. UDP の特定のポートへ任意のテキストを送信する

テストによっては電文データファイルを用意するまでもないものの、簡単なテキストを送信したい場合もあると思います。そのために、Situatorでは、任意のテキストを直接、キーボードから入力して UDP ポートへ送信する ことができます。

また、同様の手順でテキストファイルに書かれているデータをそのままテキストとして送信することもできます。

- (1) テキスト送信したい UDP ソケットを選択する。
- (2) メニューの「操作」「テキスト送信」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示 されるメニューで「テキスト送信」を選びます。
- (3) テキスト送信ダイアログ(「図 2-25 UDP テキスト送信ダイアログ」)にテキストを直接入力又はファイルか ら読み込んで、そのテキストを編集します。「OK」を押せば、そのテキストが送信されます。

テキスト送信	
送信するテキスト(Situator 2.0	D: OK キャンセル 開K(O) 復元(R)
T	テキストファイルから 開く場合、 ここをクリックする。
文字コード <mark>(C</mark>):	US-ASCII - CP20127
改行コード(<u>L</u>):	CR+LF (0x0D,0x0A) テキスト編集画面
NULL文字(N):	道加しない
送信先の設定	
ተスト <mark>(H)</mark> : [>
ポート(₽): [10000
	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 2-25 UDP テキスト送信ダイアログ

(4) テキスト送信されます。

2.13. UDP の特定のポートへ用意した電文データファイルを編集後、送信する

あらかじめ用意してある電文データファイルをそのまま送る方法は「2.11UDP の特定のポートへ用意したファ イルに書かれている電文データを送信する」の通りです。

しかし、既に用意してある電文データファイルのほんの一部分だけを変更して送信したい場合、それだけのために電文データファイルをもう一つ用意するのは面倒です。特にそれが、そのテストー回だけのためのものの 場合はなおさらです。

そうした場合、既に作ってある電文データファイルをSituator上で編集し、その編集したものを送信することができます。

(1) 送信元となる UDP ソケットを選択します。

- (2) メニューの「操作」「データ編集送信」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示されるメニューで「データ編集送信」を選びます。
- (3) データ編集送信ダイアログ(「図 2-26 UDP データ編集送信ダイアログ」)が開きますので、編集したい電 文データファイルを開きます。電文データファイルを開くと、データが表示されますので、変更したい場所を 編集し、「OK」ボタンを押せば、そのデータが送信されます(注:ここで編集した内容は、開いた元の電文デ ータファイルには反映されません)。

データ編集送信 送信するデータ①: 01 00 03 04 80 0f 00 01 ff fe 00 02 00 "0123456789ABCDEF"	× OK キャンセル 開く(0) 復元(R)
	編集したい電文デー タファイルを選ぶ。
送信先の設定 ホスト(出): ボート(P): 10000 ▼	データ編集画面
Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved	d.

図 2-26 UDP データ編集送信ダイアログ

(4) 編集した電文データファイルが送信されます。

2.14. TCP ソケットのプロパティを参照する

作成した TCP ソケットのプロパティ情報を参照することができます。

- (1) 対象の TCP ソケットを選択します。
- (2) メニューの「操作」 「プロパティ」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示されるメニューで「プロパティ」を選びます。

Pソケット ID = 3 ወጋ	クロパティ		×
全般 リンケットオブシ	ョン 暗号化		TCP ソケットの状態が
アドレスファミリ:	IP∨4		表示されます。
現在の状態	接続状態		
直前の状態:	初期状態		
ローカルアドレス:	10.162.2.76:1100		表示内容を最新
リモートアドレス:	10.162.2.76:4934		の状態に更新し
ソケットハンドル	708		ます。
受信設定			
		新の状態に更新化的	
	08	(##\/t	211.
opyright (C) 2010 OK	Ok I Software Co., Ltd. All rights	(I ३२२०`/† s reserved.	7) ,

図 2-27 TCP ソケットのプロパティダイアログ(全般タブ)



図 2-28 TCP ソケットのプロパティダイアログ(ソケットオプションタブ)

ソケットオプション設定の詳細については、開発者向けマニュアルの「3.1.3 ISASocket インターフェース」の SocketOption プロパティの説明を参照ください。



図 2-29 TCP ソケットのプロパティダイアログ(暗号化タブ)

2.15. UDP ソケットのプロパティを参照する

作成した UDP ソケットのプロパティ情報を参照することができます。

- (1) 対象の UDP ソケットを選択します。
- (2) メニューの「操作」 「プロパティ」を選ぶか、状態ビューで選択したソケットのところで右クリック後、表示されるメニューで「プロパティ」を選びます。

ውሃታット ID = 1 ወ	ナロパティ		×
全般 リンケットオプシ	ョン マルチキャスト		UDP ソケットの状態
アドレスファミリ	IP∨4		が表示されます。
現在の状態	バインド状態		
直前の状態:	初期状態		
ローカルアドレス:	0.0.0.0:60000		表示内容を最新
ソケットハンドル	784		の状態に更新し
			ます。
		最新の状態に更新(B)	
]
onvright (C) 2010 OF	(ISoftware Co. Itd. All rid	thts reserved	

図 2-30 UDP ソケットのプロパティダイアログ(全般タブ)

UDPソケッ	ヽID = 1 のプロ/	র্বিদ্যালয় হারিক বিদ্যালয় হারিকে বিদ্যালয় হারে বিদ্যালয় হারিকে বিদ্যালয় হারে হারে বিদ্যালয় হারে বিদ্যালয় হারে হারে হারে হারে হারে হারে হারে হারে
全般	ソケットオプション	マルチキャスト
SO_BR	OAD <u>C</u> AST:	無効
SO_SN	<u>D</u> BUF:	8192
SO_RC	<u>V</u> BUF:	8192
SO_ER	ROR:	0
SO_TY	PE:	2 - SOCK_DGRAM
UDP ソケットのソケットオ	·]	
プションの取得・設定を行		取得(G) 設定(S)
うことができます。		
a		OK #++`\+\

図 2-31 UDP ソケットのプロパティダイアログ(ソケットオプションタブ)



図 2-32 UDP ソケットのプロパティダイアログ(マルチキャストタブ)

ソケットオプション及びマルチキャスト設定の詳細については、開発者向けマニュアルの「3.1.3 ISASocket インターフェース」の SocketOption プロパティの説明を参照ください。

高度な使い方

Situator の高度な使い方を示します。

この機能解説をお読みになれば、Situatorのほとんどの機能が使えるようになります。

3.1. 受信するデータの情報を設定する

Situator では受信したデータをストリームとしてそのまま画面に表示するだけでなく、区切りのあるパケット(電文)として認識し、ストリームデータをパケット(電文)単位で区切って受信することもできます。それを「受信設定」と呼びます。Situator の受信設定で対応できるのは、固定サイズのヘッダ部と可変サイズのデータ部を持ち、固定ヘッダ部に可変データ部のサイズを特定できる情報を持った構造のパケット(電文)です。

受信設定を行うためには、あらかじめ、どうパケットを認識するかを記述した受信設定ファイルが必要となります。受信設定ファイルの記述については、本マニュアルの「5ファイルデータフォーマット」を参照してください。 (注意)

受信設定は、TCP ソケットでのみ使用できます。

以下に、受信設定前と受信設定後の受信の違いを例で示します。

[2004/05/29 13:30:14] TCP ソケット ID = 2 がデータを受信しました。受信データサイズ は 129 バイトです

 +0
 +1
 +2
 +3
 +4
 +5
 +6
 +7
 +8
 +9
 +A
 +B
 +C
 +D
 +E
 +F
 0123456789ABCDEF

 00000000
 40
 80
 00
 00
 80
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00

図 3-1 例:受信設定前に受信した電文データ

受信設定を行うと、「図 3-2 例:受信設定後に受信した電文データ」のようにパケット単位で受信を行います。 例では、二つのパケット(電文)として認識しています(ここでは、例として、固定ヘッダ部+可変データ部の電文 2 つ分のデータを一度に受信して、これが 2 つの電文として認識、分割されて受信している場面をあげていま す)。 [2004/05/29 13:32:49] TCP ソケット ID = 2 がデータを受信しました。受信データサイズ は 64 バイトです

 +0
 +1
 +2
 +3
 +4
 +5
 +6
 +7
 +8
 +9
 +A
 +B
 +C
 +D
 +E
 +F
 0123456789ABCDEF

 00000000
 40
 80
 00
 00
 80
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00
 00

図 3-2 例:受信設定後に受信した電文データ

実際に、受信設定をしたい場合、以下のように行ってください。

- (1) 受信設定を行いたいコネクションを選択する(「図 2-13 ファイル送信したい TCP コネクションの選択」と 同様)。
- (2) メニューの「操作」「受信設定」を選ぶか、状態ビューで選択したコネクションのところで右クリック後、表示されるメニューで「受信設定」を選びます(「図 3-3 受信設定メニュー」)。

Situator							
ファイル(E) 編集	(E) 表示(V) 操作(A)	アドイン(1) ^	ルプ田				
 X @	🖬 🕅 🚳 😡 🗡	क्ष - 📅 - 🗉	🕩 - 🕩 -				
Tcp Sockets Tinitial Bind Listen Connect Q, ID = 1 : c Accept Udp Sockets Initial Bind Addins	このののになっていたいです。 [2] た [2] ファイル送信(E) テキスト送信(E) データ編集送信(E) データ編集送信(E) ガレジョン 受信設定(R) 受信設定(R) 受信設定(R) 受信設定(R) 受信設定(R) 受信設定(R) 受信設定(R) ワロクボインド(B) クローズ(C) ここからすべてクローズ(C) ここからすべてクローズ(C)	D07/09/10 16: Uます D07/09/10 16: D07/09/10 16: Ctrl+D Ctrl+T Ctrl+E L) • Ctrl+R Ctrl+N Ctrl+L Ctrl+B Ctrl+K A)	42:36.296] 42:36.296] 42:36.296] 6:10001 ~~ 42:36.296]	TCPソケット TCPソケット TCPソケット TCPソケット す TCPソケット	ID = 1 ID = 1 ID = 1 ID = 1 ID = 1	で 10.162.2.76:1000 が作成されました が接続処理中状態にな が接続に成功しました	1 へ接 いまし た
) (1) L 20 43						
文1言該定/ア1ル(1記の140の20家	Copyrigh	t (C) 2010 OF	(I Software Co	o., Ltd. All	rights reserved.	

図 3-3 受信設定メニュー

(3) ダイアログが開きますので、用意してある受信設定ファイルを開いてください。

受信設定ファイルの資	【択				<u>? ×</u>
ファイルの場所①	🔁 DummyHost		•	3 🕫 🛤	 +
していたつたつアイル	DummyHost.xml				
び デスクトップ					
ک ۲۲ ۲۴ דא					
ער בארב אד. א- בארב אד					
र्ग २७२७-७					
	ファイル名(<u>N</u>):			•	開((())
	ファイルの種類(工):	XMLファイル(* xml) Copyright (C) 2	2010 OKI Software (▼ Co., Ltd. All rights	キャンセル reserved.

図 3-4 受信設定ダイアログ

(4) 選んだコネクションで受信設定されます。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作	F(A) アドイン(D) ヘルプ(H)
] 🔜 X 🖻 💽 😚 🚳 👰	╳ 〒 - 〒 - □ - □ - □
Tcp Sockets	[2007/09/10 16:42:36.296] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:10001 へ接
	1元します [2007/09/10 16:42:36,296] TCPソケット ID = 1 が作成されました
Listen	[2007/09/10 16:42:36.296] TCPソケット ID = 1 が接続処理中状態になりまし
Connect	た
Q, ID = 1 : connect to 10.162.2.	[2007/09/10 16:42:36.296] TCPワケット ID = 1 が接続に成功しました。接続
Accept	先は 10.162.2.76:10001 です
Udp Sockets	[2007/09/10 16:42:36.236] ICPソケット ID = 1 が接続状態になりました [2007/09/10 16:44:30 091] TCD ソケット ID = 1 本受信設定しました 受信設定
	[2007/03/10 10:44:00:001] 10 クリット 10 - 1 と文言訳定しました。文言訳 定ファイル 特制: 擬似ホスト雷文語定 です
Addins	
Ready	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 3-5 受信設定状態

受信設定を解除したい場合は、以下のように行ってください。

- (1) 受信設定を解除したいコネクションを選択する(「図 2-13 ファイル送信したい TCP コネクションの選択」と 同様)。
- (2) メニューの「操作」「受信設定解除」を選ぶか、状態ビューで選択したコネクションのところで右クリック後、 表示されるメニューで「受信設定解除」を選びます。
- (3) 受信設定が解除されます。

3.2. アドイン(スクリプト、DLL、シナリオ)を実行する

Situator では、TCP/UDP のソケット操作と電文の送受信という基本的な機能以外は、すべてアドインと呼ば れる外部プログラムやシナリオを利用して拡張するという形式になっています。アドインを利用すれば、自動的 に接続、電文の送受信、電文の内容に応じた処理の実行など、テストパターンに応じた自由な拡張が可能で す。

アドインは(1)VBScript や JScript という汎用的なスクリプト言語を利用して作成するスクリプト形式、(2)マ イクロソフト社の VisualBasic や VisualC++などのコンパイラ言語で DLL を作成する DLL 形式、(3)COM オブ ジェクト、(4)シナリオファイル形式、の4つに大き〈分かれます。アドインには引数を渡すことができ、アドインは 同じでも引数によって動作を変えるということも可能です。(1)~(3)のアドイン作成に関する詳細は、開発者 向けマニュアルを参照して〈ださい。

(4)のシナリオファイルは、Situator で定義した処理要素を組み合わせて記述し、その記述内容に従って処理を順に実行させることで、色々な通信シーケンスを実現することができます。シナリオファイルは XML 形式の テキストファイルで記述します。専用のシナリオエディタにより簡単にシナリオを作成することができます。シナリ オ作成に関する詳細は、シナリオエディタ操作マニュアルを参照してください。

スクリプト、DLL、シナリオファイルのいずれかを実行する場合、以下のように行います。

(1) メニューの「アドイン」 「ファイル実行」を選ぶか(「図 3-6 アドインファイル実行メニュー」)、状態ビューで 「Addins」を選択し、右クリック後、表示されるメニューで「ファイル実行」を選びます。

Situator	
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 操作(A) アド	インD ヘルプH
🖬 X 🖻 耳 🐯 🚳 📯 🕅	- 🕅 - 🗈 - 🗈 - 🖽
Tcp Sockets Tcp Sockets Tcp Sockets Titial To Bind Connect Accept Vdp Sockets Titial Accept Bind Addins	
ファイル美行(D) オブジェクト実行(O) スクリプト編集実行(E) 最近実行したファイル(L) 最近実行したオブジェクト(D)	Ctrl+F5 Shift+F5
ここからすべて(停止(<u>A</u>)	
プロパティ(P)	
アドインファイルの読み込みと実行	Convright (C) 2010 OKI Software Co. Ltd. All rights reserved

図 3-6 アドインファイル実行メニュー

(2) ダイアログで、実行するファイルを開きます(COM オブジェクトである DLL ファイルは、ここからは実行できません。COM オブジェクトの場合は「オブジェクト実行」から実行します)。 スクリプトファイルの場合、文字コードを指定できます。自動選択を指定した場合、文字コードコンボボックスに設定されている文字コードのいずれかからの自動選択となります。 シナリオファイルの場合、ファイル名の末尾に'!'に続けてシナリオ名を指定することで実行するシナリオを指定できます(例:scenario.xml!name)。シナリオ名を指定しない場合はファイルの先頭にあるシナリオが実行されます。

アドインファイルの選択	と実行				<u>?</u> ×
ファイルの場所型:	C EchoServer		•	3 🜶 📂 🖽•	
最近使ったファイル デスクトップ デスクトップ マイ ドキュメント マイ コンピュータ マイ ネットワーク	COMEchoServer				
	ファイル名(N):			•	III (D)
	ファイルの種類(工):	アドインファイル (*.vbs;*.js;*.dll;*.xm	nD	-	キャンセル
	文字コード(C):	自動選択		•	
	引擞(<u>A</u>):	Copyright (C) 2010 OKI Softw	vare C	▼Î o., Ltd. All rights rese	rved.

図 3-7 アドインファイル実行ダイアログ

(3) アドインを読み込むと、アドインの処理が実行されます。「図 3-8 アドインファイル実行状態」では、付属の サンプルスクリプトを実行した時の画面です。

C F. L. C	アドインの記述に従い、自動的にソケットが オープンされされる。
 EchoServer - Situator ファイル(E) 編集(E) 表示(W) このののののののののののののののののののののののののののののののののののの	オープンされされる。 操作(A) アドイン(D) ヘルプ(H) ② ※ ディーマー・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Ready 読み込んだアドイン表示される。	[2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 3 が接続状態になりました つかいつん FeboServer を実行中 Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved. 図 3-8 アドインファイル実行状態

(4) アドインでは読み込むと同時に処理を行い終了するものもありますが、このサンプルのようにアドインの停止を行うまで、アドインを動かし続けることもできます。

その場合、アドインの機能を使って、新しくメニューを追加し、そのメニューによって機能を拡張することができます。

「図 3-9 アドインによる追加メニュー」では、サンプルのアドインによって、自動応答の ON/OFF を切り替 えるメニューが追加されています。

このようにして、アドインの記述しだいで、様々な処理が可能です。

<u> EchoServer</u> – Situato	, 🗆 🗖 🔀
ファイル(E) 編集(E) 表示(W) : ■ メ 軸 I 📆 📆 📆 一 Top Sockets	操作(A) アドイン(D) ヘルプ(H) (Q) ブァイル実行(E) F5 オブジェクト実行(Q) Ctrl+F5 [2010/11, 20リプト編集実行(E) Shift+F5
Bind Bind Disten Dis	L2010/11, L2010/11,
 Q, ID = 2 : connect to Q, ID = 3 : connect from Q, ID = 3 : connect f	[2010/11/04 13:40:52.564] TCPソケット ID = 2 ⁵ が作成されました [2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 2 が接続処理中状態になりました [2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 2 が接続に成功しました。接続先は 10.162.2.76:7 です
■ 🧽 Bind ■ ℚ, ID = 1 : bind to 0.0. Addins ■ 愛 スクリプト EchoServer	[2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 2 が接続状態になりました [2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 1 で 10.162.2.76:1899 からの接続 を受け付けました。着信TCPソケット ID = 3 が作成されました [2010/11/04 13:40:52.579] TCPソケット ID = 3 が接続状態になりました
	Copyright (C) 2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 3-9 アドインによる追加メニュー

なお、メニューの「アドイン」 「最近実行したファイル」を用いて、最近動作させたアドインを実行させることも できます。この場合、「図 3-10 最近実行したファイルのダイアログ」のような、文字コードと引数を入力できる ダイアログが出ます。必要ならば値を入力してください。文字コードは、スクリプトファイルの文字コードを指定し ます。自動選択を指定した場合、文字コードコンボボックスに設定されている文字コードのいずれかからの自動 選択となります。

アドイン実行設定	ê 🛛 🔀
ファイル(E):	C:¥Program Files¥Situator¥Samples¥Addin¥EchoServ
文字コード <mark>(C</mark>):	自動選択 💌
引数 <mark>(A</mark>):	×
	OK キャンセル
Copyright (C) 2010 C	KI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 3-10 最近実行したファイルのダイアログ

(注意)

アドインは同時に 10 個まで動作可能です。それ以上を実行しようとすると、エラーメッセージが表示され、動 作させることはできません。

3.3. アドインを停止する

アドインを停止させる方法は、状態ビューでアドインを選択し、メニューの「アドイン」「アドイン停止」を選ぶ か、状態ビューでアドインを選択し右クリック後、表示されるメニューで「アドイン停止」を選びます。 3.4. スクリプト形式のアドインを編集後、実行する

アドインはテストパターンに応じて複数用意すると思いますが、少しのパラメータの違いによって別々のアドインを用意するのは面倒です。特にそれが、たった一回の特別なテストのためだけなら、なおさらです。 そういうときのために、Situator では、既にあるアドインを画面上で編集し、それを実行する機能があります。 但し、スクリプト形式のみです。

- (1) メニューの「アドイン」「スクリプト編集実行」を選ぶか、状態ビューで「Addins」を選択し、右クリック後、表示されるメニューで「スクリプト編集実行」を選びます。
- (2) スクリプト編集実行ダイアログが開きますので、編集したいアドインファイルを開きます。アドインファイルを開くと、スクリプトが表示されますので、変更したい箇所を編集し、「OK」ボタンを押せば、そのスクリプトが 実行されます。

<i>አ</i> ባባፖኮታቶ ለ ኮញ:	OK
<pre>var oApp; try {</pre>	キャンセル 「「「「「「「「」」 「「「「」」 「「」」 「「」」 「」」
言語(L): JScript 🗸	
名前(N): EchoServer	
画面 リーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

図 3-11 アドインスクリプト編集実行ダイアログ

3.5. COM オブジェクトのアドインを実行する

Situator では、スクリプト形式や DLL 形式のアドインを読み込む方法とは別に、もう一つ、COM オブジェクトのアドインを読み込むことができます。作成に関する詳細は開発者向けマニュアルを参照してください。

(注意)

COM オブジェクトは事前に(Windows 標準の regsvr32.exe 等を使用して)システムに登録しておく必要があ ります。

- (1) メニューの「アドイン」 「オブジェクト実行」を選ぶか、状態ビューで「Addins」を選択し、右クリック後、表示 されるメニューで「オブジェクト実行」を選びます。
- (2) オブジェクト実行ダイアログが開きますので、読み込みたいアドインオブジェクトの ProgID または CLSID を指定してください。「OK」ボタンを押すと、COM オブジェクト形式のアドインが実行されます。

オブジェクト実	行 X
オブジェクトの	DProgIDまたはCLSIDを指定してください
<u>I</u> D:	COMEchoServer.EchoServer
引数(<u>A</u>):	
	OK キャンセル
Copyright (C)	2010 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

図 3-12 オブジェクト実行ダイアログ

なお、メニューの「アドイン」 「最近実行したオブジェクト」を用いて、最近動作させたオブジェクトを実行させることもできます。この場合、「図 3-12 オブジェクト実行ダイアログ」のダイアログが表示され、ID と引数を入力できるダイアログが出ます。必要ならば値を入力してください。

3.6. ログ表示ビューに表示されるメッセージの色や文字数の上限を変更する

Situator では、ログ表示ビューに表示されるメッセージの色や文字数の上限を変更することができます。

メニューの「編集」「オプション」を選んで、「図 3-13 オプション設定ダイアログ」のようなダイアログを表示 します。そのダイアログに表示されている情報に従って、変更を行ってください。

プション設定)
メッセージ ログ	
┌表示する文字数の上限(止): ─────	
20 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
± 二条 ∞兆⇔	
· 教示巴()設定	
表示項目 (2): 通常メッセージ 💌	
選択(S) デフォルト(D)	
22772 2896 July 21	
通用メッセーン	
エラーメッセージ	
ソケット状態変更メッセージ	
送信メッセージ	

図 3-13 オプション設定ダイアログ

メニューの「表示」「送信データ」を選択すると「図 3-14送信データ出力設定ダイアログ」のようなダイアログ が表示され、送信データダンプ表示の上限サイズを設定することができます。画面表示とログ出力で別々に設 定可能です。

同様に、メニューの「表示」「受信データ」を選択して、受信データダンプ表示の設定も行うことができます。

画面表示設定			ОК
〇 すべて表示する(<u>A</u>)			キャンセノ
● 上限サイズを指定する(S)	256	Bytes	
○ 表示しない(1) [上限サイズ	= 0]		
ログ出力設定			
○ すべて出力する(L)			
● 上限サイズを指定する(Z)	256000	Bytes	
	- 01		

図 3-14 送信データ出力設定ダイアログ

3.7. ログファイルを保存する

Situator では、ログ表示ビューに表示されるログをファイルとして保存することが可能です。インストールした 最初の状態では、この機能はオフになっているので、ログをファイルとして保存したい場合は以下の操作を行 います。

- (1) まず、メニューの「編集」 「オプション」を選んで、「図 3-13 オプション設定ダイアログ」のようなダイアロ グを表示します。
- (2) ログのタブをクリックして、「ログを取得する」のチェックボックスをオンにします(「図 3-15 ログファイル設 定ダイアログ」)。

ログファイルの出力先、ローテーションするファイルサイズ(このファイルサイズで1ファイルとして保存され ます)、バックアップするファイルの数を変更することができます。

オプション設定
メッセージ ログ
▶ ログを取得する(L)
ログファイル出力先ディレクトリ(型):
C¥Documents and Settings¥situator¥Local Settings¥App
▼ デフォルト位置に出力する(工)
ローテーションするファイルサイズ(S):
2 MBytes
バックアップファイル数(©): 9 主
動作中の他のSituatorをすべて終了してから変更してください。本設 定は、次回起動時から有効になります。

図 3-15 ログファイル設定ダイアログ

なお、もし複数の Situator を起動している場合、この設定変更は動作中の他の Situator をすべて終了してか ら行ってください。

また、本設定は次回起動時から有効になります。

(注意)

ログファイル出力先ディレクトリのディスク空き容量が少ない時や、ログファイルを書き込みアクセス拒否でエ ディタ等のアプリケーションで開いている時、ログファイルへの書き込みやファイルのローテーションが正し〈行 われない場合があります。 3.8. 起動オプションをつけて Situator を実行する

バッチファイルなどで Situator を起動するときに、起動オプションをつけて指定したアドインをそのまま実行することもできます。

書式は以下の通りです。

書式:Situator.exe [/addinfile[:コードページ] ファイル名] [/addinobject オブジェクトID] [/addinargs "引数"]

オプションの大文字・小文字は区別しません。また、起動できるアドインは1つのみです。

[] で囲まれたオプションは任意指定です。但し、addinargsはaddinfileかaddinobjectが指定された時のみ 有効です。

addinfileとaddinobjectは先に指定された方が有効になります。addinargsに2つ以上の引数パラメータを指定する場合は、""でかこってください。

コードページを指定する場合は、10進数値文字列で指定してください。

3.9. 暗号化通信を行う

SSL/TLS プロトコルオプションパッケージを別途インストールすることにより、SSL/TLS プロトコルによる暗号 化通信を行うことができます。

暗号化通信対応の概要については、開発者向けマニュアルの「2.8 暗号化通信対応」を参照ください。また、 暗号化オプション設定の詳細については、開発者向けマニュアルの「3.1.43 ISATcpSocket3 インターフェー ス」を参照ください(Encryption プロパティが図 3-16、図 3-18の「使用する暗号化プロトコルを選択」のコンボ ボックス選択に対応し、CryptoOption プロパティが図 3-17、図 3-19の各設定項目に対応します)。

SSL/TLS 暗号化通信で必要なX.509 証明書(サーバ証明書、クライアント証明書)は、あらかじめ Windows システムの証明書ストアに登録してお〈必要があります。登録済みの証明書の一覧は、コントロールパネル -インターネットオプションのコンテンツタブ内の証明書で確認できます。証明書の登録については、SSL/TLS プ ロトコルオプションパッケージのインストールマニュアルを参照〈ださい。

(1) 着信側の設定

SSL/TLSプロトコルオプションがインストールされている場合、TCP着信待ちダイアログで暗号化の設定が有効となります。



図 3-16 TCP 着信待ちダイアログ(暗号化有効時)





(2) 接続側の設定

SSL/TLS プロトコルオプションがインストールされている場合、TCP 接続ダイアログで暗号化の設定が有効となります。



図 3-18 TCP 接続ダイアログ(暗号化有効時)



図 3-19 暗号化設定ダイアログ(接続側)

4. メニュー一覧

4.1. ファイルメニュー

	名称	説明
ファイル	表示内容を保存	ログ表示ビューの内容を任意のファイル名で保存します。
	アプリケーションの終了	Situatorを終了します。

4.2. 編集メニュー

	名称	説明
編集	切り取り	ログ表示ビューで選択した部分を切り取ります。
	コピー	ログ表示ビューで選択した部分をコピーします。
	削除	ログ表示ビューで選択した部分を削除します。
	すべて選択	ログ表示ビューの表示内容すべてを選択します。
	オプション	ログ表示ビューに表示するメッセージの文字数の上限や表示色の
		設定、ログのファイル保存に関する設定をします。

4.3. 表示メニュー

	名称	説明
表示	ツールバー	Situator のツールバーを表示する/しないを選択します。
	ステータスバー	Situator のステータスバーを表示する/しないを選択します。
	フォント	ログ表示ビューまたは状態ビューのフォント種類やスタイル、サイ
		ズを変更します。現在フォーカスのあるビューのフォントを変更しま
		す。
	送信データ	ログ表示ビューで表示される送信データやログファイルに保存さ
		れる送信データの設定をします。「すべて表示する」、「上限サイズ
		を指定する」、「表示しない」から選択しますが、上限サイズを指定
		すると、送信したデータのうち、そのサイズを超えた分については
		表示やログファイルの保存が行われません。
	受信データ	ログ表示ビューで表示される受信データやログファイルに保存さ
		れる受信データの設定をします。「すべて表示する」、「上限サイズ
		を指定する」、「表示しない」から選択しますが、上限サイズを指定
		すると、受信したデータのうち、そのサイズを超えた分については
		表示やログファイルの保存が行われません。
	自動スクロール	ログ表示ビューを自動スクロールにする/しないを選択します。但
		し、ログ表示ビューでテキストを選択状態にある場合は、表示文字
		数の上限の範囲内である限り、自動スクロールしません。

4.4. 操作メニュー

	名称	説明
操作	TCP 接続	Listen している任意のホストのポートへ Connect します。
	TCP 着信待ち	任意のポートで Listen します。 バックログの値も設定できます。 デ
		フォルト値は「10」です。
	UDP バインド	任意のポートで UDP バインドをします。

Situator[®]

操作マ	ニュ	アル
-----	----	----

クローズ	状態ビューで選択したソケットをクローズします。
ファイル送信	指定したファイルのデータを状態ビューで選択したソケットを使用
	して送信します。
テキスト送信	状態ビューで選択したソケットを使用してテキストを送信します。テ
	キストは直接、ダイアログから入力する方法とテキストファイルを
	指定してそれをそのまま送信、又は編集してから送信する方法の
	三種類があります。
データ編集送信	指定したファイルを編集し、編集したものを状態ビューで選択した
	ソケットを使用して送信します。
最近送信したファイル	最近送信したファイルの一覧が表示されます。
受信設定	状態ビューで選択した TCP ソケットの受信設定をします。
受信設定解除	状態ビューで選択した TCP ソケットの受信設定の解除をします。
最近設定したファイル	最近、受信設定したファイルの一覧が表示されます。
コントロールの表示	アドインが ActiveX コントロールを作成していた場合、そのコントロ
	ールの表示/非表示を指定します。なお、表示されている ActiveX
	コントロールのウィンドウを閉じる操作を行っても、ウィンドウは閉
	じられず、非表示となります。 ウィンドウを閉じて、 ActiveX コントロ
	ールを終了させるには、ActiveX コントロールを作成したアドイン
	からCloseを実行するか、ActiveXコントロールを作成したアドイン
	を停止させる必要があります。
プロパティ	状態ビューで表示されているソケット/アドイン/コントロールのプロ
	パティを表示します。コントロールの場合、コントロール自身が持
	つプロパティページの表示を行います(プロパティページに対応し
	ていない場合、表示できません)。

4.5. アドインメニュー

	名称	説明
アドイン	ファイル実行	アドインのファイルを指定して実行します。
	オブジェクト実行	アドインのオブジェクトを指定して実行します。
	スクリプト編集実行	スクリプト形式のアドインのファイルを指定して編集したものを実
		行します。
	最近実行したファイル	最近実行したファイルの一覧を表示します。
	最近実行したオブジェクト	最近実行したオブジェクトの一覧を表示します。
	アドイン停止	現在、実行中のアドインを停止します。

4.6. ヘルプメニュー

名称		説明
ヘルプ	バージョン情報	ライセンス情報(名前、登録状態)、バージョン情報を表示します。

4.7. コンテキストメニュー

ここでは、コンテキストメニュー(マウス右クリックで表示されるメニュー)にだけ存在するメニュー項目について 示します(通常のアプリケーションメニューと同じメニュー項目の説明は省略しています)。

状態ビューのメニュー項目

名称	説明
ここからすべてクローズ	状態ビューで選択しているフォルダ配下のソケットをす べてクローズします。
ここからすべて停止	状態ビューで選択しているフォルダ配下のアドインをす べて停止します。

ログ表示ビューのメニュー項目

名称	説明
データコピー	ログ表示ビューに表示されている送信データのバイナ
	リダンプまたは受信データのバイナリダンプのうち、現
	在の選択行について、Situator データファイルで扱うこ
	とができる形式に変換し、クリップボードにデータをコピ
	ーします。コピーしたデータは、データ編集送信ダイア
	ログ画面で貼り付けして(右クリックメニューから貼り付
	けを実行します)、データ送信することもできます。

4.8. ツールバーアイコン

ここでは、ツールバー上のアイコンボタンが対応するメニュー項目について示します。

アイコン	説明
	「4.1ファイルメニュー」の「表示内容を保存」に対応しま
	す。
*	「4.2編集メニュー」の「切り取り」に対応します。
ee al an	「4.2編集メニュー」の「コピー」に対応します。
Ŧ	「4.3表示メニュー」の「自動スクロール」に対応します。
	自動スクロールが有効の時、ボタンが沈みこんだ状態
	となります。
<u>8</u>	「4.4操作メニュー」の「TCP 接続」に対応します。
0 3	「4.4操作メニュー」の「TCP 着信待ち」に対応します。
Q	「4.4操作メニュー」の「UDP バインド」に対応します。
×	「4.4操作メニュー」の「クローズ」に対応します。
69 -	「4.4操作メニュー」の「ファイル送信」に対応します。
	「」ボタンを押すと、ドロップダウンメニューが表示さ
	れ、「ファイル送信」「テキスト送信」「データ編集送信」
	の各メニュー項目と、最近送信したファイルの一覧から
	選択することができます。

Situator[®] 操作マニュアル

8 1 -	「4.4操作メニュー」の「受信設定」に対応します。 「」ボタンを押すと、ドロップダウンメニューが表示され、「受信設定」「受信設定解除」の各メニュー項目と、 最近受信設定したファイルの一覧から選択することが できます。
	「4.5アドインメニュー」の「ファイル実行」に対応します。 「」ボタンを押すと、ドロップダウンメニューが表示され、「ファイル実行」「スクリプト編集実行」の各メニュー 項目と、最近実行したファイルの一覧から選択すること ができます。
	「4.5アドインメニュー」の「オブジェクト実行」に対応します。 「」ボタンを押すと、ドロップダウンメニューが表示され、「オブジェクト実行」のメニュー項目と、最近実行したオブジェクトの一覧から選択することができます。
B •	'4.5アドインメニュー」の'アドイン停止」に対応します。

5. ファイルデータフォーマット

Situator の利用者は用途に応じて、受信設定ファイルや電文データファイルを用意する必要があります。

受信設定ファイルは XML のデータ形式に従っています。受信設定ファイルを記述する場合は、「5.1受信設 定ファイルについて」をよく読んだ上で作成してください。

また、作成は普通のテキストエディタで作成することもできますが、本製品に同梱されている「受信設定定義フ ァイルエディター」をお使いになると、より簡単に作成することが可能です。「受信設定定義ファイルエディター」 に関しては、ツール操作マニュアルを参照してください。

また、電文データファイルを記述する場合は、「5.2データファイルについて」をよく読んだ上で作成してください。

5.1. 受信設定ファイルについて

受信設定ファイルは XML 形式になっています。XML ファイルの encoding は、UTF-8、UTF-16、システム デフォルト(日本語 OS なら Shift_JIS)に対応します。Encoding の指定が無い場合は UTF-8(XML の 標準)が標準となります。

「図 5-1 受信設定ファイルのフォーマット」に例を示します。

```
<?xml version="1.0" ?>
<situator>
<receive version="1.0" mode="byte|message">
   <info>any information text here</info>
   <byte/>
   <message>
       <header size="nnn"/>
       <data adjustSize="nnn">
           <lengthBinary offset="nnn"
              format="hex1|hex2be|hex2le|hex3be|hex3le|hex4be|hex4le|bcd1|bcd2|bcd3|bcd4"/>
           <lengthString offset="nnn"
              format="hex1|hex2|hex3|hex4|hex5|hex6|hex7|hex8|dec1|dec2|dec3|dec4|dec5|dec6|dec7|dec8"/>
           <match offset="nnn" type="string|bin.hex" caseSensitive="true|false" dataSize="nnn">XXX</match>
       </data>
   </message>
</receive>
</situator>
```

図 5-1受信設定ファイルのフォーマット仕様

フォーマット仕様に従って XML のタグを以下に解説します。

Copyright (C) 2004-2014 OKI Software Co., Ltd. All rights reserved.

項目(XPath)		説明
/situator/receive/		受信設定 TOP ノード
	@version	受信設定のバージョン
	@mode	受信モード
	Ū	bvte:バイトストリーム(区切りなし)
		message: メッセージストリーム(メッセージ
		の区切りがある)
/situator/receive/info/		この受信設定ファイルについての任意の情報
		省略可能。
/situator/receive/byte/		バイトストリームモード設定
		バイトストリームモードの時に有効
/situator/receive/message/		メッセージストリームモード設定
		メッセージストリームモードの時に有効
/situator/receive/message/header/		ヘッダ部の定義
	@size	ヘッダ部のサイズを指定する。
/situator/receive/message/data/		データ部の定義
		このノード配下に可変部分を特定するための
		条件を設定する。上から順に各条件に一致する
		かどうかをチェックして可変部分のサイズを
		特定できるまでたどっていく。
	@adjustSize	条件に一致して取得した可変部分のデータサ
		イズに対して加算または減算して調整が必要
		な場合にそのサイズを指定する。減算する場合
		は-10 のように'-'を付与する。
		省略可能。省略時は、0とする。
/situator/receive/message/data/lengthBinary/		バイナリ値によるサイズ指定
	@offset	メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ
		ト単位で指定する。
	@format	サイズ指定のフォーマット形式を指定する。
		hex1:1 バイト
		hex2be:2 バイトビッグエンディアン
		hex2le:2 バイトリトルエンディアン
		hex3be:3 バイトビッグエンディアン
		hex3le:3 バイトリトルエンディアン
		hex4be:4 バイトビッグエンディアン
		hex4le:4 バイトリトルエンディアン
		bcd1:BCD1 バイト(2 桁数値)
		bcd2:BCD2 バイト(4 桁数値)
		bcd3:BCD3 バイト(6 桁数値)
		bcd4:BCD4 バイト(8 桁数値)
/situator/receive/message/data/lengthString/		数値文字列によるサイズ指定
	@offset	メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ
		ト単位で指定する。

Situator[®] 操作マニュアル

@format サイズ指定のフォーマット形式を指定する。 hex1:16進文字列1桁 hex2:16進文字列2桁 hex2:16進文字列3桁 hex4:16進文字列5桁 hex6:16進文字列6桁 hex7:16進文字列8桁 dec1:10進文字列7桁 hex8:16進文字列8桁 dec2:10進文字列2桁 dec2:10進文字列2桁 dec3:10進文字列2桁 dec3:10進文字列3桁 dec4:10進文字列3桁 dec4:10進文字列5桁 dec6:10進文字列5桁 dec6:10進文字列7桁 dec6:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列1桁 dec8:10進文字列1桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10進文字列10桁 dec8:10 dec8:10 dec9:10 dec8:10 dec9:10 dec8:10 dec9:10 dec9:10 dec8:10 dec9:			
hex1:16進文字列1桁 hex2:16進文字列2桁 hex3:16進文字列4桁 hex4:16進文字列4桁 hex5:16進文字列4桁 hex6:16進文字列5桁 hex7:16進文字列7桁 hex8:16進文字列8桁 dec1:10進文字列1桁 hex8:16進文字列2桁 hex7:16進文字列1桁 hex8:16進文字列8桁 dec1:10進文字列2桁 dec2:10進文字列2桁 dec2:10進文字列3桁 dec2:10進文字列4桁 dec3:10進文字列4桁 dec4:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec6:10進文字列6桁 dec6:10進文字列6桁 dec6:10進文字列6桁 dec6:10進文字列7桁 dec6:10進文字列8桁 dec6:10進文字列8桁 dec6:10進文字列8桁 dec6:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁		@format	サイズ指定のフォーマット形式を指定する。
hex2: 16 進文字列 2 桁 hex3: 16 進文字列 3 桁 hex4: 16 進文字列 5 桁 hex5: 16 進文字列 5 桁 hex6: 16 進文字列 7 桁 hex8: 16 進文字列 8 桁 dec1: 10 進文字列 1 桁 dec2: 10 進文字列 2 桁 dec3: 10 進文字列 2 桁 dec3: 10 進文字列 4 桁 dec4: 10 進文字列 4 桁 dec5: 10 進文字列 5 桁 dec6: 10 進文字列 5 桁 dec6: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 5 桁 dec8: 10 進文字列 5 桁 dec8: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 /situator/receive/message/data/match/ (situator/receive/message/data/match/ (worfset メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。 @otfset メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。 @twpe 比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列 (hexBinary) @caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			hex1:16 進文字列 1 桁
hex3: 16 進文字列 3 桁 hex4: 16 進文字列 4 桁 hex5: 16 進文字列 5 桁 hex5: 16 進文字列 5 桁 hex6: 16 進文字列 6 桁 hex7: 16 進文字列 7 桁 hex8: 16 進文字列 7 桁 hex8: 16 進文字列 1 桁 dec1: 10 進文字列 1 桁 dec2: 10 進文字列 2 桁 dec3: 10 進文字列 3 桁 dec4: 10 進文字列 4 桁 dec5: 10 進文字列 6 桁 dec7: 10 進文字列 6 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 7 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 8 桁 dec7: 10 進文字列 8 桁 dec8: 10 進文字列 9 0 種類 geografiset メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。 @twpe 比較データの種類を指定します。 string: 文字列 bin.hex: パイナリ文字列 (hexBinary) @caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文<			hex2:16 進文字列 2 桁
hex4 : 16 進文字列 4 桁 hex5 : 16 進文字列 5 桁 hex6 : 16 進文字列 7 桁 hex7 : 16 進文字列 8 桁 dec1 : 10 進文字列 1 桁 dec2 : 10 進文字列 2 桁 dec3 : 10 進文字列 3 桁 dec4 : 10 進文字列 4 桁 dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec4 : 10 進文字列 5 桁 dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 7 桁 dec6 : 10 進文字列 7 桁 dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 7 桁 dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁 /situator/receive/message/data/match/ (woffset) ダッセージ先頭からのオフセット位置をパイ ト単位で指定する。 @offset メッセージ先頭からのオフセット位置をパイ 小単位で指定する。 @type 比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : パイナリ文字列 (hexBinary) @caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			hex3:16 進文字列 3 桁
hex5:16進文字列5桁 hex6:16進文字列6桁 hex7:16進文字列7桁 hex8:16進文字列7桁 hex8:16進文字列2桁 dec1:10進文字列2桁 dec2:10進文字列2桁 dec3:10進文字列3桁 dec4:10進文字列5桁 dec6:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec6:10進文字列7桁 dec6:10進文字列7桁 dec6:10進文字列7桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列9下 dec8:10進文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10近文字列8桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁 dec8:10進文字列4桁			hex4:16 進文字列 4 桁
hex6:16進文字列6桁 hex7:16進文字列7桁 hex8:16進文字列7桁 hex8:16進文字列1桁 dec1:10進文字列2桁 dec2:10進文字列3桁 dec3:10進文字列4桁 dec4:10進文字列4桁 dec5:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列16桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec7:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec8:10進文字列8桁 dec9:10近代の1 getap			hex5:16 進文字列 5 桁
hex7:16進文字列7桁 hex8:16進文字列8桁 dec1:10進文字列1桁 dec2:10進文字列2桁 dec3:10進文字列2桁 dec4:10進文字列4桁 dec5:10進文字列5桁 dec6:10進文字列5桁 dec6:10進文字列7桁 dec8:10進文字列5桁 dec6:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 /situator/receive/message/data/match/ (空のffset メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ 小単位で指定する。 (空type) 比較データの種類を指定します。 string:文字列 bin.hex:バイナリ文字列(hexBinary) (@caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			hex6:16 進文字列 6 桁
hex8 : 16 進文字列 8 桁 dec1 : 10 進文字列 1 桁 dec2 : 10 進文字列 2 桁 dec3 : 10 進文字列 3 桁 dec4 : 10 進文字列 4 桁 dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁 /situator/receive/message/data/match/ /situator/receive/message/data/match/ /situator/receive/message/data/match/ @offset メッセージ先頭からのオフセット位置をパイ ト単位で指定する。 @type 比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : パイナリ文字列 (hexBinary) @caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			hex7:16 進文字列 7 桁
dec1:10進文字列1桁 dec2:10進文字列2桁 dec3:10進文字列3桁 dec4:10進文字列4桁 dec5:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 /situator/receive/message/data/match/ /situator/receive/message/data/match/ (situator/receive/message/data/match/ (btop) (confiset)			hex8:16 進文字列 8 桁
dec2:10進文字列2桁 dec3:10進文字列3桁 dec4:10進文字列4桁 dec5:10進文字列5桁 dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁 /situator/receive/message/data/match/ /situator/receive/message/data/match/ (situator/receive/message/data/match/) (bttp://www.second/match/) (bttp://www.second/match/) (bttp://www.second/match/) (bttp://www.second/match/) (bttp://www.second/match/) (bttp://www.second/match/) (cond/match/)			dec1:10 進文字列 1 桁
dec3 : 10 進文字列 3 桁 dec4 : 10 進文字列 4 桁 dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 6 桁 dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁 /situator/receive/message/data/match/ /situator/receive/message/data/match/ @offset ジッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ・単位で指定する。 @type 比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列 (hexBinary) @ccaseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec2:10 進文字列 2 桁
dec4 : 10 進文字列 4 桁 dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 6 桁 dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁/situator/receive/message/data/match/比較する文字列またはバイナリ文字列を指定 する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec3:10 進文字列 3 桁
dec5 : 10 進文字列 5 桁 dec6 : 10 進文字列 6 桁 dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁/situator/receive/message/data/match/比較する文字列またはバイナリ文字列を指定 する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec4:10 進文字列 4 桁
dec6:10進文字列6桁 dec7:10進文字列7桁 dec8:10進文字列8桁/situator/receive/message/data/match/比較する文字列またはバイナリ文字列を指定 する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string:文字列 bin.hex:バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec5:10 進文字列 5 桁
dec7 : 10 進文字列 7 桁 dec8 : 10 進文字列 8 桁/situator/receive/message/data/match/比較する文字列またはバイナリ文字列を指定 する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec6:10 進文字列 6 桁
dec8 : 10 進文字列 8 桁/situator/receive/message/data/match/比較する文字列またはパイナリ文字列を指定 する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec7:10 進文字列 7 桁
/situator/receive/message/data/match/ 比較する文字列またはバイナリ文字列を指定 する。 @offset メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。 @type 比較データの種類を指定します。 string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary) @caseSensitive 比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			dec8:10 進文字列 8 桁
する。@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string :文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。	/situator/receive/message/data/match/		比較する文字列またはバイナリ文字列を指定
@offsetメッセージ先頭からのオフセット位置をバイ ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string :文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			する。
ト単位で指定する。@type比較データの種類を指定します。 string :文字列 bin.hex : バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。		@offset	メッセージ先頭からのオフセット位置をバイ
@type比較データの種類を指定します。 string :文字列 bin.hex :バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			ト単位で指定する。
string : 文字列 bin.hex : バイナリ文字列 (hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。		@type	比較データの種類を指定します。
bin.hex: バイナリ文字列(hexBinary)@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			string :文字列
@caseSensitive比較データが文字列指定(string)の場合に、大文 字・小文字の区別をするかどうかを指定する。			bin.hex :バイナリ文字列(hexBinary)
字・小文字の区別をするかどうかを指定する。		@caseSensitive	比較データが文字列指定(string)の場合に、大文
			字・小文字の区別をするかどうかを指定する。
true : 区別する			true : 区別する
false:区別しない			false : 区別しない
@dataSize データ部のサイズを指定する。		@dataSize	データ部のサイズを指定する。

5.2. データファイルについて

データファイルは、以下の仕様となっています。

- 1. データファイルは、テキストファイルに任意のバイナリ値(文字列で指定) または文字列を記述 した形式です。
- 2. データファイルは、システムデフォルトコードページ(日本語 0S の場合は Shift_JIS)で記述され たテキストとします。
- 3. バイナリ値はすべて 16 進数で指定し、1byte 単位(2桁)で指定します。
- 4. 16 進文字('a'~'f')の大文字小文字は区別しません。
- 5. 文字列は ""(ダブルクオート)で囲んで指定します。なお、終りの " が存在しない場合は改行ま たは EOF を終りとみなします。複数行にまたがった文字列指定はできません。
- 交字データとして "を含めたい場合、¥"のようにエスケープ文字(¥)を付与して設定します。
 エスケープ文字(¥)自体を文字データとして含めたい場合、¥¥のように設定します。また、
 ¥0,¥t,¥r,¥nはそれぞれ0x00,0x09,0x0d,0x0aとして扱います。
- 7. 改行コードは CR (0x0d) LF (0x0a) CR+LF に対応します。
- 文字列データの途中以外の";"または"#"文字以降の行(改行まで)はコメントとみなし、無視します。但し、文字列データの途中の;や#はコメントではなく文字データとして扱いますので注意してください。
- 9. 行先頭、行末尾、空行などのホワイトスペース(スペース、TAB)は読み飛ばします。
- 10. データサイズの最大は 0x7FFFFFF までか、もしくはこのサイズ内でメモリが確保できるまでとなります。

電文データファイルのサンプルを「図 5-2 電文データファイルのサンプル」に示します。

#この行はコメントです

	;データの後ろにもコメントが記述できます
11	;1byte
0a 0b 0c 0d 0e 0f	;1byte * 6
"ABC"	;文字列
"DE"	;文字列
01020304	;1byte * 4
0506070809	;1byte * 5

図 5-2 電文データファイルのサンプル

上記のデータファイルの時、実際に回線上に送信されるデータは、以下のようになります。 11 0a 0b 0c 0d 0e 0f 41 42 43 44 45 01 02 03 04 05 06 07 08 09